

2023年6月、東京計器 那須工場の敷地内に、小型SAR衛星\*の組立を目的とした「宇宙棟」が竣工しました。那須工場は防衛機器の開発・生産を基点に、そこで培った独自の先端技術を海上交通機器、情報通信機器、計測機器などの製造に展開している工場です。これらの高度な組立技術や品質管理の知見をもとに、今後、宇宙棟では衛星の量産を中心に取り組んでまいります。東京計器では、2022年6月に

株式会社Synspectiveと小型SAR衛星の量産化に向けたパートナーシップを締結いたしました。他社との協業を通じて、宇宙空間という過酷な環境にも耐え得る組立手法や、コスト、製造期間、品質評価などのノウハウを蓄積し、より幅広い事業へと展開していくことにより、「東京計器ビジョン2030」で掲げた成長ドライバーのひとつである宇宙事業の確立を目指します。



小型衛星の複数同時生産を実現する大型のクリーンルームが設けられている。

\*SAR衛星：合成開口レーダー（SAR=Synthetic Aperture Radar）を用いた人工衛星。光学カメラによる撮影とは異なり、地表に向けて照射したマイクロ波の反射波を受信・解析することで昼夜・天候に左右されずに、地盤や構造物の微細な様相変化や変動量の把握が可能。